

【Ⅱコリント人への手紙 9章】

「少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、
豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。」

(Ⅱコリント9:6)

捧げものとは、神様の愛に対しての感謝と愛を表す恵みのわざであり、信仰の行いです。自分を捧げることが何よりの捧げものです。

アブラハムはこの捧げ物において試みを受けました。なんと何年も待ってやっと生まれた一人子の「イサクを捧げなさい。」と言われたのです。(創世記22章)彼はそれに従順して、信仰の父として大きな祝福を受けました。その子供のイサクは非常に素直な人でしたが、1年に100倍の祝福を受けた(創26:12)と記されてあります。信仰は試され、従順するものに祝福を与えられます。アブラハムが喜んでイサクを捧げたとは思いません。しかし、苦しんで、その上自分より、子供より神を第一としたところに、彼の信仰があり、それを神はよしとされました。捧げものを通しては、あなたの心がどこにあるのかを問われます。「あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。」(マタイ6:21)

ここに「少しだけ蒔く者」とあるのは原語では、「惜しみつつ蒔く者」の意味で、ケチケチしながら蒔く者だということです。一方「豊かに蒔く者」は、「慈恵・恵む心・祝福」といった意味を持つ言葉で、蒔き方によって刈り入れの祝福が違って来るわけです。(箴言11:24、25 22:9)

また捧げたいと思う人には、「蒔く人に、種と食べるパンを備えてくださるお方」です。(10節) ということは、捧げたいと思う人には、収穫ができて捧げることができるようにその種を与えてくださるということです。捧げたらそれで終わりではなく、捧げた人が食べられるようにパンも与えてくださるということです。そして(11節) あらゆる点で豊かになって、12節には、この捧げものをするを「奉仕のわざ」と言っていますが、これは

①聖徒達の必要を満たす。 ②神に感謝するようになる。 ③キリストの福音の告白に従順であることを示す。 ④捧げられた人達が捧げた人を慕うようになる。(ここではエルサレムの聖徒達が、コリントの兄弟達を) という結果をもたらすと記されています。

いやいやながらではなく、強いられてでもなく、自分の心で決めた通り、愛と誠実を持って喜んで与えるものとなってゆきましょう。神様は喜んで与える人を愛して下さいます。(7節)神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。(8節)



TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven

主任牧師:イエス・キリスト

牧師:ダニエル大重

SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】

2012.6.10 No.687

今年のみ言葉 歴代誌Ⅱ 20:22

我らが喜びの声、賛美の声をあげ始めたとき、
主は伏兵を設けて～彼らは打ち負かされた。



主の十字架クリスチャンセンター(TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://astone-blog.jp/tlcccfrh/>

* 皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意下さい。

教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。